

## 鉄鋼・非鉄金属

### 1. 評価対象企業（14社）

#### 【鉄鋼】（5社）

日本製鉄、神戸製鋼所、JFEホールディングス、丸一鋼管、大同特殊鋼

#### 【非鉄金属】（9社）

日本軽金属ホールディングス、三井金属鉱業、三菱マテリアル、住友金属鉱山、DOWAホールディングス、UACJ、古河電気工業、住友電気工業、フジクラ

（証券コード協議会銘柄コード順）

### 2. 評価方法

#### (1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス	経営陣のIR姿勢等	2	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	20
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	10
④ESGに関連する情報の開示	ESG関連	4	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的な情報開示	1	10
計		13	100

(注) 具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

#### (2) 評価実施アナリストは17名（所属先17社）である。（氏名等は後掲）

### 3. 評価結果

#### (1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、**説明会等**および**ESG関連**を中心に項目内容、配点を見直した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は73.9点（昨年度72.2点）、総合評価点の標準偏差は7.1点（昨年度6.4点）となった。
- ② 業態別の総合評価平均点を見ると、鉄鋼（5社）は78.2点（昨年度74.2点）となった。また、非鉄金属（9社）は71.5点（昨年度71.1点）となり、鉄鋼および非鉄金属は共に、昨年度に比べ上昇した。
- ③ 5つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点（以下省略））を見ると、**経営陣のIR姿勢等**が72%（昨年度71%）、**説明会等**が80%（昨年度同率）、**フェア・ディスクロージャー**が86%（昨年度74%）、**ESG関連**が71%（昨年度同率）、**自主的な情報開示**が66%（昨年度62%）となり、**説明会等**および**ESG関連**を除く3分野は、昨年度に比べ改善した。
- ④ 評価項目について見ると、全13項目中、次の4項目（**説明会等の2項目(a)、(b)**、および**フェア・ディスクロージャーの2項目(c)、(d)**）が平均得点率80%以上となり、高い水準であった（昨年度は2項目）。

(a) 「収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされ

- ていますか」(平均得点率 80% [昨年度 79%]) (得点率 (評価点/配点 (以下省略)): 60%台 1社・70%台 6社・80%台 6社・90%台 1社)
- (b) 「四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか」(平均得点率 99% [昨年度 91%]) (得点率: 80%台 1社・100%13社)
- (c) 「経営陣および IR 部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか」(平均得点率 88% [昨年度 79%]) (得点率: 80%台 6社・90%台 8社)
- (d) 「決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか」(平均得点率 85% [昨年度 72%]) (得点率: 60%台 1社・70%台 2社・80%台 6社・90%台 5社)
- ⑤ ESG 関連の 4 項目は、次のとおりとなった ((b) (c) (d) は、本年度の新設項目)。なお、(d) の平均得点率は、全 13 項目中で最も低くなった。
- (a) 「経営トップが企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等での確に伝えていますか」(平均得点率 76% [昨年度 75%]) (得点率: 50%台 1社・60%台 4社・70%台 3社・80%台 6社)
- (b) 「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。」(平均得点率 75%) (得点率: 60%台 2社・70%台 8社・80%台 4社)
- (c) 「社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。」(平均得点率 71%) (得点率: 60%台 4社・70%台 9社・80%台 1社)
- (d) 「社外取締役との対話の機会が確保されていますか」(平均得点率 12%) (得点率: 10%未満 6社・10%台 4社・20%台 3社・30%台 1社)

## (2) 上位 3 企業の評価概要

### 第 1 位 神戸製鋼所 (ディスクロージャー優良企業 [初受賞])

総合評価点 83.8 点 [昨年度比+5.5 点]、昨年度第 4 位)

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 86%)、ESG 関連 (81%) が第 1 位、説明会等が第 2 位 (87%)、自主的情報開示が第 3 位 (76%)、フェア・ディスクロージャーが第 6 位 (89%) となった。昨年度に比べ、自主的情報開示を除く 4 分野において得点率が改善した。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」が第 1 位 (昨年度第 4 位)、および「IR 部門の機能」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 8 位) となった。これに関連して、IR 部門の人員の増加、工場見学・事業説明会・スモールミーティングなど IR 機会が増加、トップも積極的にかかわっている、投資家との対話内容を開示に活かしているとの声があった。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 5 位) となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」の「決算説明会等における会社側の説明は十分であること」はトップと僅差の同得点第 2 位、「インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていること」も僅差で第 2 位となった。これに関連して、インタビューでの情報開示は大きく改善しており、他社より充実しているとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 1 位 (昨年度同得点第 1 位) となった。その一方、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は第 6 位となり、昨年度第 2 位から順位を落とした。これらの結果、この分野において第 6 位 (昨年度第 2 位) となった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」は同得点第 1 位、および「ESG に関する情報開示」が第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位 (昨年度第 3 位) となった。ディスクロージャー面ではカーボンニュートラルへ向けた低炭素鉄源に関する取組みの開示及び説明などを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第 3 位となった。評価できるイベントとして、事業説明会、ESG 説明会、発電所・工場見学会の開催が挙げられた。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

## **第2位 JFEホールディングス**（総合評価点 81.5 点〔昨年度比+0.4 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャー（93%）、ESG 関連（79%）が第2位、経営陣の IR 姿勢等が第3位（80%）、説明会等（84%）が第4位、自主的情報開示（75%）が同得点第4位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が第3位となった。これに関連して、人員が十分に配置されており、情報の集積が進んでいるとの声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」が第4位となった。これに関連して、トップの IR が改善傾向にあり、方向性が理解できるようになったとの声があった。なお、各事業会社トップの IR の機会を望む声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「四半期情報開示」が同得点第1位（昨年度同得点第5位）となった。また、「説明会、インタビューにおける開示」は第4位（昨年度第2位）となった。これらの結果、この分野において第4位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、インタビューでの情報開示は他社より充実しているとの声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第1位（昨年度同順位）となった。また、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」は第2位（昨年度第1位）となった。これに関連して、説明会動画、議事録、質疑応答要旨がウェブサイトに掲示されていることを評価するとの声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していること」が最も高い評価となった。これに関連して、情報開示に積極的で、統合報告書が充実していることを評価する声があった。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第4位となった。評価できるイベントとして、ESG 説明会や千葉製鉄所見学会・仙台製造所見学会の開催が挙げられた。

## **第3位 日本製鉄**（総合評価点 81.3 点〔昨年度比-0.3 点〕、昨年度第1位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（89%）、経営陣の IR 姿勢等が第2位（85%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第3位（91%）、ESG 関連が同得点第4位（77%）、自主的情報開示が第10位（58%）となった。昨年度に比べ、自主的情報開示の得点率が大きく下がった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能」が、最も高い評価となった。これに関連して、IR 部門における十分な人数と情報の深さを評価する声が寄せられた。また、「経営陣の IR 姿勢」は第2位となった。これに関連して、トップマネジメントに発信力があり、今後の事業戦略が明解に伝わってくるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、IR ツールの情報量が年々充実しており、進化が続いていることを評価する声や、業績予想に必要な定量的な数値の開示を評価する声があった。また、「説明会資料等における実績および見通しの開示」も第1位（昨年度第3位）となった。これらの結果、この分野で第1位（昨年度同得点第2位）となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「ウェブサイトやリモートツールによる情報提供」が第3位となった。また、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」は昨年に比べ得点率が改善し、第5位（昨年度第8位）となった。これらに関連して、重要な投資案件に関する迅速な説明会の開催を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「経営陣の ESG に対する取組姿勢」は第6位（昨年度第2位）、「ESG に関する情報開示」は第3位（昨年度第2位）となった。これらに関連して、カーボンニュートラルに向けた方向性を含めて、統合報告書の充実度が高いと評価する声が寄せられた。
- ⑥ 自主的情報開示の「工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容が充実していること」は第10位（昨年度第6位）となり、平均得点率に達しなかった。

以上

## 2023年度 ディスクロージャー評価比較総括表 (鉄鋼・非鉄金属)

(単位:点)

順位	評価項目	総合評価 (100点)	1. 経営陣のIR姿勢、 IR部門の機能、IR の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 IR資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. ESGに関連する 情報の開示		5. 各業種の状態に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	5406 神戸製鋼所	83.8	25.7	1	17.4	2	8.9	6	24.2	1	7.6	3	4
2	5411 JFEホールディングス	81.5	24.1	3	16.8	4	9.3	2	23.8	2	7.5	4	2
3	5401 日本製鉄	81.3	25.6	2	17.8	1	9.1	3	23.0	4	5.8	10	1
4	5741 UACJ	79.0	23.5	4	16.7	5	9.1	3	23.0	4	6.7	9	3
5	5801 古河電気工業	77.3	21.9	5	15.7	9	9.4	1	23.1	3	7.2	7	6
6	5706 三井金属鉱業	75.9	21.6	6	16.1	6	8.5	9	21.6	8	8.1	1	7
7	5713 住友金属鉱山	75.2	21.0	9	15.1	13	9.1	3	22.5	6	7.5	4	8
8	5711 三菱マテリアル	75.1	21.4	8	15.2	12	8.7	8	22.0	7	7.8	2	5
9	5463 丸一鋼管	72.5	20.9	10	17.2	3	7.9	13	19.0	12	7.5	4	13
10	5471 大同特殊鋼	72.0	20.3	11	15.9	8	8.2	10	20.4	9	7.2	7	11
11	5803 フジクラ	69.6	21.6	6	16.0	7	7.4	14	19.6	11	5.0	12	10
12	5714 DOWAホールディングス	67.6	18.7	13	15.7	9	8.8	7	18.9	13	5.5	11	12
13	5802 住友電気工業	66.9	19.1	12	15.4	11	8.0	12	19.7	10	4.7	13	9
14	5703 日本軽金属ホールディングス	56.9	15.7	14	12.8	14	8.1	11	16.6	14	3.7	14	
	評価対象企業評価平均点	73.90	21.50		15.99		8.61		21.24		6.56		

## 2023年度評価項目および配点（鉄鋼・非鉄金属）

【評価期間：2022年7月～2023年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（30点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営トップが企業価値向上への意識を高め、投資家にとって有意義なメッセージを発信していますか。また、投資家の期待や懸念を理解し、それに応えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	20
(2)IR部門の機能	
・IR部門が十分に機能していますか。（十分な人員配置、IR部門への権限委譲、情報集積の支援、アナリストが要望する情報の提供、担当交代時の十分な引継ぎなど）【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（20点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会等における会社側の説明は十分ですか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	8
②インタビューにおいて、企業分析に有益な対話がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	5
(2)説明会資料等における実績および見通しの開示	
・収益および財務分析に必要な情報は十分に記載されており、かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期ごとに、業績動向に関するアナリストミーティングまたはウェブ会議・電話会議を開催していますか。また、四半期決算の内容の理解に必要な情報が十分に開示されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（10点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が情報開示に際し、外国人投資家を含め不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。	5
(2)ウェブサイトやリモートツールによる情報提供	
・決算説明会等の内容を、動画、音声、議事録等を通じて、迅速かつ公平にウェブサイトに掲載していますか。	5
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
(1)経営陣のESGに対する取組姿勢	
・経営トップが企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に統合報告書等の資料、説明会等で的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	15
(2)ESGに関する情報開示	
①脱炭素に向けたロードマップや取組内容を、定性・定量両面で開示していますか。	8
②社会貢献、人的資本、人権リスク、労働安全衛生等に関する情報およびその対応方針を積極的に開示していますか。	5
③社外取締役との対話の機会が確保されていますか。	2
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（10点）	配点
・工場見学、事業部説明会、技術説明会等を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた工場見学や説明会等名をコメント欄に記入して下さい】	10

鉄鋼・非鉄金属専門部会委員

部会長	山口 敦	SMBC 日興証券
部会長代理	五老 晴信	UBS 証券
	井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント
	尾崎 慎一郎	大和証券
	白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券
	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
	松本 裕司	野村証券

評価実施アナリスト(17名)

井上 崇	三井住友トラスト・アセットマネジメント	竹元 宏和	明治安田アセットマネジメント
入沢 健	立花証券	竹間 雅子	SOMPO アセットマネジメント
岩崎 彰	大和アセットマネジメント	中村 宏司	QUICK
尾崎 慎一郎	大和証券	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
五老 晴信	UBS 証券	野田 健介	ニッセイ アセットマネジメント
崎村 英治	野村アセットマネジメント	松本 裕司	野村証券
白川 祐	モルガン・スタンレー MUFG 証券	宮原 秀和	丸三証券
Xin Hao	JP モルガン証券	山口 敦	SMBC 日興証券
鈴木 博行	みずほ証券		

(注) 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。